



# 森ボラ 通信

第243号 2022年 8月20日発行  
NPO 法人 **北海道森林ボランティア協会**

URL <https://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8ラルズ生活研究センター  
TEL (fax.): (011) 816 - 7010  
E-mail: hshinrin2002@nifty.com

## 活動報告

### ◆ 支笏湖 復興の森(独自) 生長調査の報告

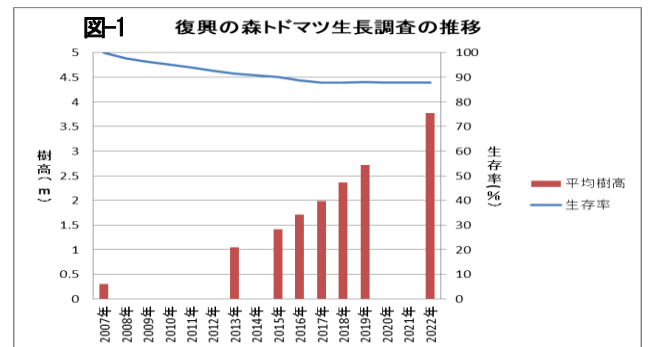
ここは2007年10月に当会と石狩森林管理署が協定を結び、千歳市国有林5456林班に小班(面積:1.12ha)にトドマツ苗936本を植栽しました。その後協定の延長を繰り返しながら下草刈り、播種、生長調査を続けています。コロナの関係でここ2年は活動が出来ませんでした。6月29日に作業道草刈りと生長調査を行いましたので報告します。



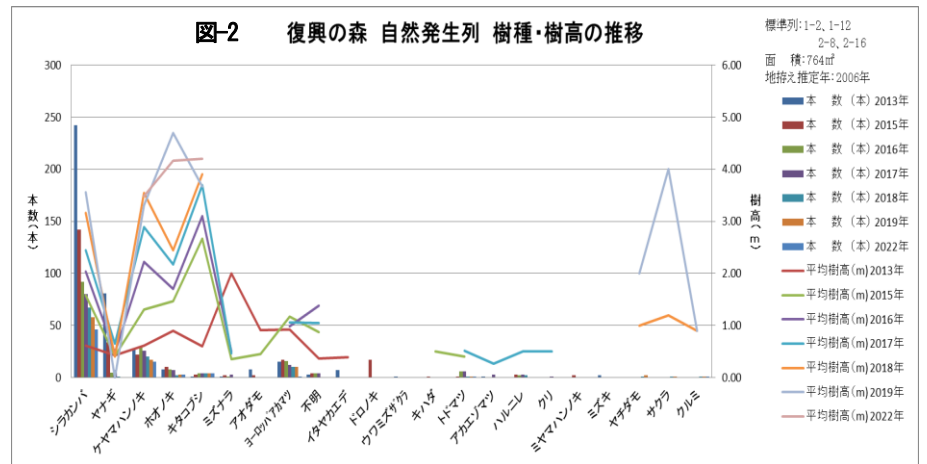
作業道の草刈りの状況

作業道の草刈りは4人で主林道から活動地奥まで行いました。2年ぶりの草刈りで草の生長が心配されましたが例年通りの様子で安心しました。

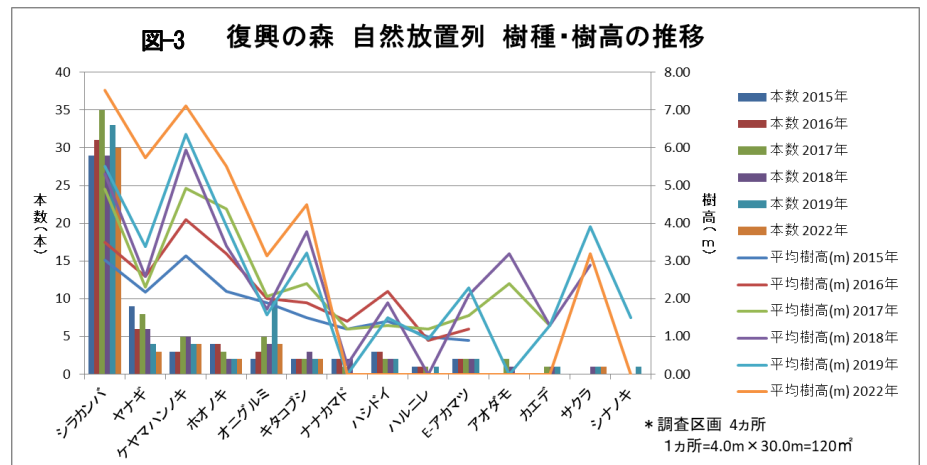
生長調査は3班に分かれトドマツ班は、植栽したトドマツ全数の枯死状況調査と代表2列の樹高調査を行い、経年変化を図-1にまとめました。この図からトドマツは生存確認が90%あまりで推移し、樹高も順調に生長していると言えます。



自然発生列はトドマツ植栽列の間の列で、地植えは植栽列と同様に行った列です。自然発生列の樹種別の本数、樹高を図-2に示します。シラカンバ、ケヤマハンノキなどの先駆樹種が多く見られミズナラ、ハルニレ、ヤチダモなどの後継種はシカ、ウサギなどの被害を受けたと思われ消えてしまいました。この図の樹高は、胸高周長を計り2017年に調査した樹高・胸高周長近似曲線図から推定しました。



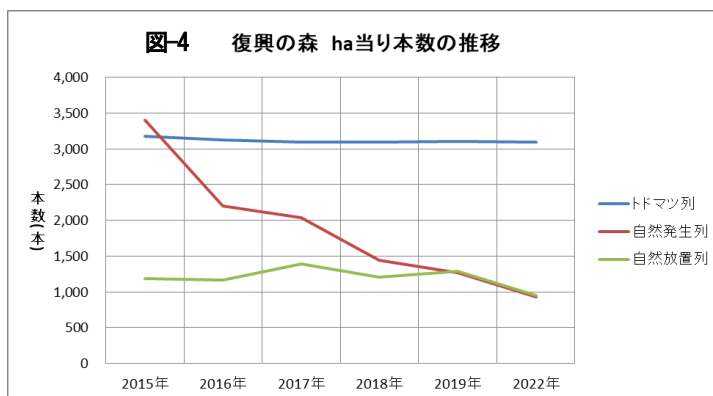
自然放置列は植栽列と自然発生列の間の幅4mの区域で、植栽列の地植え時の伐根や表土を積み重ねた場所です。シカなどの動物が歩きにくい状況と考えられます。ここも先駆樹種が多く自生し、全体の樹



\* 調査区画 4カ所  
1カ所=4.0m×30.0m=120㎡

種数も7種と少なく思われますが経年の推移を見ると個体数の減少は自然発生列より少なくなっています。また、近くの親木から種が飛んできて自生していたヨーロッパアカマツは1本が確認できただけでした。

調査年毎のha 当り本数の推移を図-4に示します。トドマツ列は植栽した本数の90%ほどは生存していて、ha 当り本数は3000本を保持しています。自然発生列は2015年の調査開始年には3400本ですが今年では1000本を割り、自然放置列と同じ結果となっています。原因ははっきりは分かりかねますが、食害の影響が顕著と思われます。



ここでの活動は15年目を迎え、植栽したトドマツの平均樹高は3.8mとなり、初期の育林活動は終了し、今後は新たな地区での活動に力を注ごうと考えています。これまでの活動を支えていただいた会員関係者の皆さまに感謝します。ありがとうございました。(文・樞棒)

### ◆ 第3回親子森林教室の活動報告

朝の雨の心配もよそに、第3回親子森林教室は湿度やや高め程よい曇り空のもと、「工作して夜の森を探検する」をテーマに7月10日14時から開催され、森しり隊員14名、保護者10名、協会員12名が参加しました。



手鎌を使って下草を刈ってみる

プログラムの初めは、「木を育てる作業」について樞棒さんから、地拵え、播種、植樹、下草刈り、整理伐などの一連の作業について説明を受け、それぞれに使用する鋏、鎌、草刈り機、チェーンソーなどの道具について、実物を見て学びました。次は、その作業の一つの下草刈りに挑戦、駐車場わきの植栽地に外来種のフランス菊や夏草が繁茂した所を、4班に分かれて一斉に刈りました。松井さんから、草の根元近く、地面に水平にスナップを利かせて手鎌を振るといったコツを教してもらい、親子共に一生懸命鎌を振り、あっというまにさっぱりとした広

場に刈り上がりました。

第二のプログラム「森の材料を使った工作」は、3グループに分かれて行いました。去年も参加



間伐材を使って巣箱を作る

した継続隊員5人は、大窪さん、荒船さんの指導で巣箱作り、新人隊員5人は松藤さん指導でドングリそろばん作り、ジュニア隊員3人と保護者3人は西野澄子さん指導でツルや木の実を使ったクラフト作りをしました。どの班も90分間集中してスムーズに創作が進んだようでした。

三番目の作業は4月に植菌して仮伏せしていたホダ木の本伏せです。各自のホダ木に名札を付けて、親子のホダ場まで運んで本伏せしました。植菌に参加できなかったメンバーの分も協会員が用意しておりました。シイタ

ケやナメコが顔を出す日が楽しみです。

暗くなる前に本日の活動のまとめをしました。森の材料で作った工作品を一人一人が披露して苦労した点など発表しました。巣箱は広葉樹の板の曲がりやねじれで組み立てが大変だったこと、ドングリそろばんはドングリが割れやすかったりして竹串を通すのが大変だったこと、ジュニアのクラフト作品はカブトムシや顔、リースなど個性的作品で楽しさいっぱいの報告でした。また、下草刈りの意義をおさらいしたところ、稚樹に栄養、日当たり、風通しを良くしてやることの他に、クマが隠れにくくするという「今風」の答えも飛び出しました。

続いて夕食タイム、食後には恒例の冷えたスイカが協会から振舞われました。

日も暮れ始めて「夜の森の探検」の部の始まりです。動物写真家でコウモリ研究家の中島宏章さんから、スライドを観ながら「コウモリの話」を聞きました。子供たちを引き付ける質問を次々に投げかけながら、コウモリの面白さにグイグイと引き込まれてしまう楽しいお話でした。「コウモリはかわいい、身近にいる」ことが伝わりました。

次に酒井さんから「蛍の一生」について、スライドを観ながらのお話。蛍が光って飛ぶのはパートナーを探している間で、水辺に産卵後、成虫は1-2週間の寿命を終えてしまいます。卵からかえった幼虫は水の中で巻貝のカワニナを食べて冬を越します。カワニナは清流にしか住まないで、川が汚れるとカワニナも蛍も育ちません。春に水から上がった幼虫は土の中に入りやがて蛹になって過ごし、6-7月頃に脱皮して成虫になり、水辺で光って飛ぶのです。

森の暗さが増してきた頃、5班に分かれてキャリコ橋に向かって夜の森の探検に出発。中島さんからお借りした超音波探知機が、随所でビビビツとなり、コウモリが飛んで超音波を発信しているのをいくつも捉えることができました。キャリコ橋に着くと、明かりを消して息をひそめて蛍の光飛ぶのを待ちました。残念ながら蛍の群舞は見られませんでした。草の上でかすかに光っている様子が公式発表6匹ということでした。森を育て、川をきれいにすることの大切さが改めて身に沁みました。

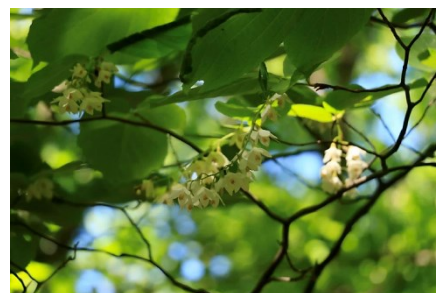
20時25分、小屋前広場に帰り着いて、1日のプログラムを完了し解散しました。雲が晴れた夜空に十一夜月が煌々と照っていました。お疲れさまでした。(文・合田)

## ■ 澄川の自然 36

### ハクウンボク (白雲木・エゴノキ科)

高さ6~15mになる落葉小高木。樹皮は暗灰褐色で縦に細かい筋が入る。葉は単葉で互生。花は両性花。6月~7月頃、枝先から白い花、総状花序を下垂する。別名、葉が大きいのでハビロとも。

今年、中流橋から樹木園へ向かう土手を登り、右手にあるハクウンボクが花を咲かせました。いままでパラパラと花を付ける事がありました。こんな見事に枝一杯に花を付けたのは初めて見ました。



この木を発見してから10数年、ずっと見守ってきました。数年前、E-5とE-7区を繋ぐ道路作業の時、E-5側の沢沿いに丁度咲いているのを見て以来澄川では久しぶりです。とっても得をしたような、幸せな気持ちにさせてくれました。名前の由来は、青い空に浮かぶ白い雲をイメージした様です。又、材は固く淡黄白色で肌目が美しく、東北地方ではコケン・将棋の駒に利用されます。(写真/三橋・文/西野(澄))

## ■ おしらせ

### 森ボラ創立二十周年記念式典を開催します。会員は活動参加申込書で申込を！

平成14年に発足しました当協会は、本年6月10日をもって創立二十周年の節目を迎える事が出来ました。これもひとえに協会員の皆さんの「森を愛する」情熱があつてのことと思います。

つきましては、下記内容で二十周年記念式典を開催いたしますので、普段森には来られていないご家族やお孫さんとご一緒に是非参加ください。なお昼食の準備等がありますので、9月の活動参加申込書出欠欄に記入の上、事務局宛て早めに連絡ください。

- ・日時 2022年(令和4年)10月2日(日) 午前10時~14時(式典は10時~12時)
- ・場所 澄川都市環境林 駐車場特設会場
- ・内容 式典、展示、林内散策、イベント(丸太切り競争、きのこ狩り等)  
弁当、飲み物を用意しています
- ・参加費用 無料
- ・アクセス 地下鉄自衛隊前駅 9時00分~9時30分 送迎車運行(事前に出欠欄に記入の事)  
駐車場:式典会場斜め向かい三幸建設臨時駐車場(別紙案内図参照)

## 新入会員の紹介～よろしくお願ひします！

まつの ゆうか  
松野 有花 さん(18歳)

大変嬉しい報告です。2度の体験参加後、入会を決めていただいた松野さんは何と3月までは高校生！！愛知県から単身で大学生活を送る事になって知らない土地で大変な時に体験の申込をしていただきました。自然と接することが好きで、専攻は驚きの水産学部なので2年後には函館に行ってしまうのですが、その間森の生活を満喫していただきたいと思います。学校ではマイクロプラスチックを減らす取り組みをしたいとの事で、頼もしい新人に是非温かく接してください。

### ■ 今月の幹事会

出席者(8/10):大窪・荻田・樫棒・清澤・西野(澄)・松藤・三橋・矢澤・矢野

- 2022年9,10月活動スケジュール(9月幹事会9月7日(水)):20周年記念行事案内を入れる。
- 2022年7月末会計報告:了承
- 2022年度森林・山林多面交付金事業6月活動報告:了承
- 第3回親子森林教室報告と第4回活動スケジュール:了承
- 来年度の国有林:野幌・復興・コンサ終了。烏柵舞を新規協定締結。水明・ぶんぶん・野幌継続。
- 第一樹木園整備:区域の確定。標識プレートを付替え。胸高周長計測、樹種同定。ミズナラ稚樹整理。
- 新型コロナウイルス感染防止に向けた取組み指針改定:了承
- 現場報告
  - ・7/5,24 野幌国有林の活動:笹刈り、地拵えに苦闘。      ・7/12 野幌道有林の活動
  - ・7/7,8,19 支笏湖活動(烏柵舞、ぶんぶん、水明):ぶんぶんまでの林道が破損し迂回。
  - ・7/22 澄川南小学校4年生自然観察:生徒58名、先生3名参加。下草の名前に苦戦。
  - ・コモドの森活動報告:7/16 西岡公園ホテル鑑賞、300匹余りが乱舞。7/24 野幌国有林
  - ・8/9 CGC 烏柵舞の森現地打合せ:9/21 植樹式及び来年度の計画を打合せ
- その他
  - ・20周年記念専門委員会:案内者名簿、案内文書、返信ハガキの内容を確認。当日仮設資材了承。
  - ・充電式刈払い機:澄川での実演を踏まえマキタ MUR005GZ、4.0Ah バッテリーキットを試行的に導入。
  - ・ソーラー電源:検討を進める。      ・刈払い機の使用規定:早急に検討を進める。
  - ・多面事務局主催刈払い機・チェーンソー安全講習:9/6、10/5に参加者を募り申し込む。8/24まで。

### ■ 活動履歴

月日	行事・活動地	参加人数	活動内容
7月16日(土)	澄川	12	水質調査、樹木園整備、マキ作り
7月19日(火)	支笏湖(水明郷、コンサ)	9	作業道・植栽列草刈り、生長調査
7月22日(金)	澄川	15	澄川南小4年生自然観察、マキ作り、刈払い機がモ
7月24日(日)	野幌国有林	14	笹草刈り、整理伐、コモドの森
7月26日(火)	澄川	12	北地区作業道整備、マキ作り、ホダ場整備
7月28日(木)	有明	6	防獣網補修、生長調査
7月30日(土)	澄川	13	北地区作業道整備、炭化炉の移動・設置
8月1日(月)	野幌道有林	9	下草刈り、地拵え、防草シート布設
8月3日(水)	澄川	14	樹木園整備、炭焼き準備、北地区モーターリング地設定
8月7日(日)	澄川	10	集材、モーターリング調査、北地区整理伐
8月9日(火)	支笏湖(烏柵舞)	2	CGC 谷口専務、イベント業者、当会の打合せ
8月10日(水)	ラズビル4F 会議室	9	幹事会
8月11日(木)	澄川	8	北地区整理伐、樹高調査補足